

第六節 天災地変と百姓の惨状

一、天災地変

この時代は洪水・大風雨・旱魃などがしきりに起こり、その度ごとに饑饉に襲われ、食糧に困り、時には松餅や藁餅などを工夫して食料とした。

江戸時代における高松藩の災害を列举すると次のとおりである。

年 月	災 害	年 月	災 害
寛永三年四月	大風雨	寛永三、七	早魃・飢饉に頻す

寛永二〇、秋	大旱・大饑饉	宝永四、九	大風雨、饑饉
正保二、	大旱(町内八つの池創築)	〃 四、一〇	十月四日大地震、五剣山東一峰崩れる、町内死者十数人。東嶽で潰れた家千軒
承応三、	大旱、秋大風洪水、牛馬疫病で死す	〃 七、七	災害
明暦三、五	大水	〃 七、八	大風雨、大饑饉
万治三、五	洪水	正徳五、七	大雨雹
寛文二、五	地震	〃 五、八―冬	疫病流行、死者数千
〃 六、七	大風、家屋・稲被害	享保三、	牛馬疫死数千
〃 八、夏	大旱、雨乞	〃 三、六	大旱、雨乞(八日間)
天和元、八	大風・洪水、死者多し	〃 四、八	雹降る、大饑饉
〃 二、	高松藩、松島・西浜で飢者救助	〃 五、六	大雨
貞享三、七	大風・洪水	〃 五、一二	〃
〃 四、九	大風・洪水、高松城東西の堤防破る	〃 六、七	大洪水
元禄四、八	大風雨	〃 七、春	饑饉
〃 八、七・九	〃	〃 七、六	大風雨
〃 一一、五	大雨、五剣山北端折れる	〃 七、八	大風雨、大饑饉、堤防破、山崩、溺死百余人、春日住民避難
〃 一二、六	大旱、雨乞	〃 七、一二	大雨雪
〃 一五、八	大風・洪水、稲虫発生	〃 八、正	大風、家倒る
宝永三、五	大旱、祈雨五日	〃 八、三	痘瘡流行、死者数千
〃 四、三	地震	〃 九、四	雨雪、雹

延享 四、九	疫病流行	安永 元、八	大風雨・洪水、 <small>家屋倒壊(二万九千余戸) 難破船(二四〇)</small>
〃 七、夏	大旱	〃 二、	飢饉、おが虫発生
〃 七、七	大風	天明 二、二	大風(三日間)
〃 七、九	大風、牛馬死す	〃 二、五	大風雨
寛延 元、六	大風雨	〃 二、五	二十五日より三日間雨続き大洪水
〃 元、七	大旱	〃 二、七	大風雨
〃 元、九	大風雨・洪水二回、飢饉	〃 二、八	大風
〃 二、四	地震	〃 三、	飢饉
〃 二、六	大風雨、洪水、 <small>穀物実らず 百姓一揆、餓死を待つ</small>	〃 五、	早魃
〃 二、八・九	牛疫流行、数千頭死す	〃 六、八	大風雨
宝曆 二、七・八	洪水、蝗発生	〃 六、九	同
〃 四、六・七	雨なし	〃 七、五	大風
〃 五、夏	大旱	〃 八、五	十四日より三十八日間雨続き大洪水
〃 七、七	同、大風・洪水、人畜多く死す	寛政 二、	大旱
〃 七、九	大風雨	〃 三、	洪水
明和 三、	早魃	〃 四、七	大風雨
〃 五、	洪水	〃 七、	洪水
〃 六、	同	文化 元、九	大風雨
〃 七、六	飢饉、雨乞	〃 三、	大旱魃

享保 九、七	大旱、雨乞	享保 一五、八	疫病流行、蝗発生、不作
〃 一〇、六	大旱、稻虫、祈雨	〃 一五、一〇	癩疹流行
〃 一〇、九	海水溢漲、堤防大潰	〃 一六、六	大雨、地震
〃 一〇、一〇	地震二回	〃 一六、七	地震
〃 一一、正	大雨雹	〃 一六、一一	雷
〃 一一、二	雨雪	〃 一七、	饑饉、稻虫発生
〃 一一、三	大雨雪	〃 一八、七	流行病、死者数千
〃 一一、九	大洪水、盜賊徘徊	〃 一九、三	疫病発生
〃 一二、正	地震	元文 二、九	洪水
〃 一二、二	雷、大風、 <small>家屋、船舶多く損傷 溺死者多し</small>	〃 三、八	大風雨、洪水
〃 一二、四	雷	寛保 元、四	地震
〃 一三、八	大風三日、海辺堤防破壊	〃 元、七	祈雨、大風、家屋倒壊
〃 一四、二	雷雨	〃 二、四	雹
〃 一四、五	雪	〃 二、六	洪水、溺死者多し
〃 一四、九	大風雨、家屋倒壊	延享 元、	洪水、堤防破壊、稲作被害
〃 一四、一〇	降雪、作物実らず	〃 元、冬	大雹、凍死者あり
〃 一五、五	雨雹	〃 二、	早魃
〃 一五、六	雹	〃 三、八	洪水
〃 一五、七	蝗発生、大風、堤防崩壊	〃 四、夏	大旱魃

文化 五、六	大風、樹木倒る	天保 八、	穀物実らず
〃 一三、	洪水	〃 一二、八	大風・洪水
〃 一四、九	大風雨、人馬溺死多し	安政 元、一一	大地震、人家傾倒、屋外避難
文政 四、七	大風・洪水	〃 二、七・八	大風・洪水
〃 九、五	二十一日より十六日間大風・洪水	万延 元、七	同
〃 一二、七	大風・洪水	慶応 元、八	大風・洪水(七、八日)
天保 四、八	大風・洪水、稲虫発生	〃 二、八	一日より八日まで大風・洪水

以上主なものを列挙したが、とにかく江戸時代のこの天災の多いのには驚くほかはない。前記中、宝永四年の地震について「蘭窓茶話」と「高松藩記」中から次に記す。

。五剣山の一峰崩落(「蘭窓茶話」より、少々現代化して記す)

宝永四年丁亥七月十日に星月を貫ぬく。八月十二日雨甚だしく、十九日大風、九月十二日に大風雨、海浜の堤ぐずれ、民家破損多く、此の年大いに飢饉なり。十月三日夜天晴れて月見え、四日は甚だ暖にして単衣を着る。笠を着て綿をとり苗をかる。八つ時分(後二時)に地震してその声雷の如く、地裂けて水湧き出る。砂地は裂ける事わけて甚だし。五剣山の一峰崩れて落ちたり。火光雷の如く、其の響遠方まで聞えたり。墓石は悉く倒れ、井戸側・水甕・壺等飛び出る。家は倒れ、或はゆがみたる如し。北浜の屋倒れ死者二十八人。此の時御吟味ありて潰れ家、ゆがみ家、それぞれ米をくだされける。翌日より少しずつ震るこゝと度々なり。海潮多く満ちて平生よりは五六尺も高し。よって堤防も多くそこねける。その節誰いうとなく近日又大いに揺れて高潮来るとて、人々おそれて外にかり屋を作り、米を携え、海潮来たらば山へ逃ぐべしと用意しける。此の時、五畿内も同前にて三河、遠江などまで甚だしかりし。大阪も高潮にて人家を損し人も多く死す。京はさほどに無かりし。十一月二十三日に至り

て富士山焚出、沙石降下、江戸なども昼暗くして咫尺も見えず。二十八日に至りてようよう、空晴れけるとなり。翌年(宝永五年)夏雹降りて、それより小震も止みけるとなり。富士山の沙石も取り払いに国々より壱万石に金貳百兩ずつ公儀へ御指出なりたり。

。宝永四年丁亥十月四日八つ時分高松大地震に付公儀へ御差出之書付(「高松藩記」より)

- 一、天守櫓屋根瓦落、壁損申候
- 一、多門二ヶ所転懸申候其外之多門少々ひっこみ屋根瓦落、壁大破仕候
- 一、城内石垣并懸塀所々崩れ申候
- 一、城内潰家十九軒、其外二三之丸懸塀大破仕候
- 一、城内橋一ヶ所崩れ申候
- 一、潰家九百貳拾九軒、内四十五軒家中、六百四拾九軒町、貳百三十五軒郷中
- 一、土蔵十八ヶ所、川口番所三ヶ所、崩れ申候
- 一、死人貳拾九人、内九人男、二十人女
- 一、怪我人三人、内二人男、一人女

以上